

## 高学年部の考え方（第6学年「比例と反比例」について）

### 1 数理を確実にした子どもの姿

- ・ 伴って変わる2数量の関係を、表やグラフから読み取ったり、表したりすることができる子ども。
- ・ 比例の特徴を一般化してとらえ、問題の解決に活用することができる子ども。

### 2 実態把握

以下の内容に関する子ども達の実態を把握するため前提テストを実施する。また、問題の工夫として、2数量の関係を読み取る力を把握するために、表から2数量の関係を読み取ったり、2数量の関係を表に表したりする問題を取り入れる。

- ・ 表から2数量の関係を読み取る。
- ・ 2数量の関係を表に表す。
- ・ 既習内容を活用して、未習の比例問題を解決する。

### 3 表現活動

#### ○ 表現内容・表現方法

- ・ 表現内容…伴って変わる2数量の関係を表す方法。
- ・ 表現方法…表、式、グラフ、言葉

#### ○ かく活動や説明する活動の工夫

- ・ 既習の掲示物の活用（かく活動）
- ・ 少人数交流における言語的表現活動の場の設定（説明する活動）
- ・ 他者説明を取り入れた言語的表現活動の場の設定（説明する活動）

### 4 成果と課題

#### 【掲示物の工夫】

- 考えに見出しをつける表現を定着させることで、子どもが考えの根拠を明らかにして表現できるようになった。
- 本時問題を解決するための子どもの思考と既習の内容が、掲示物によってうまくリンクしていた。
- 発表の仕方が掲示してあることで、発表が苦手な子にとっては効果的な支援となった。
- 掲示物を利用して表に矢印や数値、計算の意味などを書き込む姿が見られたことは良かったが、目指す子どもの姿として、さらに高い姿を設定してもよかった。

#### 【少人数交流】

- 交流の手順や、どのような文言で交流をすすめていくかを明示することで、子ども自身が表現内容を明確にとらえ、順序だてて説明しようとする姿が見られた。
- 少人数交流を意図的に仕組んでいくことで、子ども達が考えを説明する機会を設けることができ、結果として、子どもがスムーズに考えを話せるようになった。
- 交流のねらい（「何のためにこの交流をするのか」）が子どもにとってはっきりしていなかったため、考えを言うだけで終わってしまった子が見られた。子ども同士で考えを深めていくような手立てが必要であったと考える。
- 考えを文章で書いていた子が、交流の際に自分の文章を読んでいた。式と表をつなぐ説明の仕方、言葉や式の指し示し方などを事前に例示しておく必要があった。